

## 1 部局名

健康福祉学部

## 2 学長指定課題

豊かな教育と専門的知識を活用し自ら考え実践できる高度医療人等の育成及び医療者の心を育む教育の検討

## 3 事業名

シミュレーション教育の充実 ——学部横断型、学年横断型自主学習ルームの構築——

## 4 事業実施代表者名

健康福祉学部長 木下 正信

(成果報告者 平成 29 年度 健康福祉学部長 渡辺 賢)

## 5 事業の概要

国家資格のない学生の臨床実習は、医療行為ができないため、実習でも直接患者に接する機会は少なく、医療系大学ではシミュレーション機器による教育を行っている。学生自らがそれらの機器を活用し、自ら考え実践できるシミュレーションルームの設置は、医療現場に必要な様々な知識とスキルの習得が可能となる。

また、他の専門職の職務や役割を理解した上で自らの職とどのように関連するかを理解し、多職種とコミュニケーションを図ることにより、多くの専門職が連携・協力することの価値を認めあう等の知識・スキルの獲得が求められる「多職種連携教育 (Interprofessional education : IPE)」について、本学部では平成 18 年度より英国やスウェーデンとの本学学生の海外短期 IPE 研修などを実施しており、平成 26 年度後期には、本学部 4 学科横断、学年横断型の IPE 科目を設置したところである。

従来の IPE はペーパーペイシエントによる事例検討が主であるため、ケアに関する必要な情報は個々の専門職の立場から既に文字化されていることが多いが、平成 26 年度後期に開講する本学部の IPE については、シミュレーションルームの設置することにより、各学科の学生はお互いリアルタイムで患者の状況を知ることができ、授業や演習及び実習での身体所見や画像所見の疑問も解決でき、より実践的医療技術の獲得ができる。

臨床に近い環境の中で学科を越えた仲間との議論は、医療者の心を学ぶ良い機会でもある。

## 6 事業の成果

急性期シミュレーションルームの図書館内の設置は、日本の医療系大学では初めての試みであり、当初考えていた「いつでも利用できる」、「図書館内の図書を利用しながら疑問点を解決できる」、さらに、IPL での看護学科の学生が他学科の学生に聴診器の使い方を教えたり、理学や作業の学生がベッドから車いすへの移乗を看護や放射の学生教えるといった学科横断型、学年横断型の授業が根付き始めており、さらなる充実を期待している。

さらに、北豊島学園の 3 年生の理科の授業で「身体を知る」という科目があり、平成 27 年、28 年と毎年、図書館内のシミュレーションルームを用いて看護学科の教員が中心となり、中学生に対して教育を行っている。その効果もあってか 2 名の学生が本学部に入學している。このような取り

組みも、近隣の中学校・高等学校低学年に拡大できることを期待している。ただし、シミュレーションモデルが高額なために、現状では利用手続きの敷居が若干高く、学生が気軽に利用できないとの声も聞かれている。モデル人形の使用方法などわかりやすいマニュアルを作成するなどして、利用したいと思ったときにすぐに利用できるような（学生主体のモデル人形活用に関する）利用手続きの仕組みを整えていきたい。

校舎棟の在宅シミュレーションルームの充実は、極めて価値が高く、昭和 61 年に昭和のたたずまいの在宅看護学実習室であったが、本事業の過程で学生教員間の意見交換も行えたため、平成の時代にマッチングした在宅シミュレーションルームを完成することができた。その結果、在宅シミュレーションルームの完成により、各学科で 1 つの課題をカメラで収め、その画像を他の学生が評価し、どの行為が良いのか改善を要するのかを学生同士で評価して医療技術を向上する取り組みを開始できるようになった。なお、自分の技術を振り返りながら支援方法を学習するためのシナリオ作りに各担当教員は取り組んでいるところである。